



表紙

小林英樹

《DRIVE》 アクリル・ウレタン・シリコン 1303×1940mm

## 表紙絵解説

地平線に向かって伸びる一本の道、ぼくは物心ついたときからこういった構図の景色を追い求めていた。この作品は1988年のもの、埼玉から大阪（神戸）へ、9年して、札幌へ移って2年くらい経ったときの作品である。ぼくは、妻と幼い2人の子供を連れて北海道に渡り、大自然と向き合った。いま思えば、無謀としか言いようがないが、夕闇迫る見晴らす限り地平線の大地の真中に身震いしながら立っていた。明日があることを信じて、明日に一縷の望みを託して地平線を見つめていたような気がする。あれから走り続けて三十数年、いま、進むべき道を見失いそうなぼくは、あえてこの作品と向き合っている。ここからが勝負、地平線に伸びる道はぼくの原点だが、そこに立つためにはしっかりした目標を定め、突き進むに足るだけの燃えるような意欲が必要だ。果たして喚起できるのか。

小林英樹